

旅人と森



mikatuki98

赤の森と青の森が隣り合わせに存在していた。

隣合わせだが、それぞれの森の精は隣の森に行くことが出来ない。

しかしお互い噂に訊く赤の森と青の森の世界に興味を抱いた。

「何とかして青の森に行ってみたいのだが……」

「どうにかして赤の森に行く方法はないだろうか……」

それぞれの森の精が、毎日のように頭をひねっていた。

そんな森にある日、一人の旅人が通りがかった。

「わぁ～なんてきれいな青の森なんだろう？　こんなにハッキリした色彩は初めて見たぞ！」

旅人は感動に浸りながら青の森を通り過ぎ、今度は隣り合わせの赤の森に入って行った。

「おお～今度は目の冴えるばかりの赤の森だ。それに青の森に劣らずハッキリとした色彩だ！」

旅人は再び感動に浸りながら赤の森を歩いていたが、ふと、もう一度青の森に戻ってみたいとなった。

「そうだ！　このまま通り過ぎるのは勿体ない」

旅人は方向を変え、再び青の森を目指した。

ところが行けども行けども青の森に辿りつけない。

「おかしいなぁ～　こんなに遠くはなかった筈なのに……」

旅人は途方に暮れて地面に座り込んだ。

すると辺りが一面紫色に輝き始めた。

「え？　この色は……　こんな場所に紫の森があったっけ？」

不思議なことに、旅人が通った赤の森と青の森の間には、紫の森が生まれていた。

それからというもの、赤の森の精と青の森の精は、紫の森を通ることによってお互いの森を往き来出来るようになったとき。了